

岡崎地域フォーミュラリの導入までの経緯について

当地域では、高齢化の進展や慢性疾患患者の増加、さらには医薬品の多様化に伴い、地域全体でより標準的で、かつ経済性にも配慮した薬物治療を進める必要性が高まってまいりました。

こうした背景の中で、医療機関ごとに薬剤選択のばらつきが生じることや、将来的な医薬品供給の安定確保も課題として意識されるようになりました。

フォーミュラリは、医学的妥当性や経済性を踏まえて医薬品の使用方針を整理するものであり、患者さんに良質な薬物療法を提供するための枠組みとして注目され、昨年、政府はいわゆる

「骨太の方針」にて「地域フォーミュラリの推進」を打ち出し、国全体で進めていくことが示されました。

そこで当地域では、2年ほど前から、岡崎市医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会と基幹病院が連携し、地域フォーミュラリの策定に向けた体制づくりを進めました。まず基幹病院である岡崎市民病院において院内フォーミュラリが整備され、それを地域版策定の出発点としました。

次に、地域で実際に使用されている薬剤の使用状況を把握するため、薬剤師会会員薬局を対象に使用量調査を実施しました。これにより、単に既存のモデルフォーミュラリを写すのではなく、地域の実情を反映した内容とすることを重要視しました。

そのうえで、日本フォーミュラリ学会のモデルフォーミュラリや岡崎市民病院版の院内フォーミュラリの内容を参考にしながら、地域フォーミュラリの原案を作成し、その原案を医師会や歯科医師会に提示してご意見を伺い、現場の視点を反映しながら修正を重ねました。

さらに、南海トラフ地震のリスクが高い地域特性から「防災フォーミュラリ」としての社会的意義もあることから、こうした多職種の合意形成を経ることで、地域で受け入れられやすく、実際に運用可能なフォーミュラリへと近づけていった点が、今回の取り組みの大きな特徴だと考えております。

そして、最終的には三師会での承認を得て、岡崎地域フォーミュラリとして運用開始に至りました。この取り組みは、単なる薬剤選択の標準化ではなく、地域の医療資源をより有効に活用しながら、患者にとってより良い薬物治療を実現するための仕組みづくりです。今後は、運用を通じて見えてくる課題を改善しながら、地域医療の質向上と持続可能な体制づくりに結びつけていくことが重要だと考えています。

以上